

序

近年の医学研究の進歩は、糖尿病を取り巻く環境を大きく変容させた。次世代シーケンサーの普及により可能となった全ゲノム解析から数多くの糖尿病の疾患感受性遺伝子が同定され、遺伝子改変技術の進歩により糖尿病の分子メカニズムの詳細が明らかにされつつある。治療薬に関しても、その多くで分子標的を含めた作用機序の詳細が明らかになり、これまでの研究の成果として登場したインクレチン関連薬の使用が、低血糖・体重増加のリスクを回避した血糖コントロールを可能とするなど、治療のパラダイムシフトが起こっている。一方、糖尿病診療の現場では、今なお増え続ける患者さんと選択の幅が広がった多様な治療法を前に多忙を極め、疾患の病態あるいは薬剤の作用の分子機構の理解に時間を割けないというのが現状である。

このような背景を踏まえて編集された本書は、糖尿病と関連代謝性疾患の病因・病態研究と治療薬への理解を深めることを目的とした用語集であり、わが国における当該分野を代表する先生方に執筆いただいた。第1部では、治療薬に関連した用語を臓器別に厳選し、基礎的な研究で得られた最新の知見をご紹介いただいた。第2部では重要な治療薬の分子標的とその病態への関与、作用の分子メカニズムを中心に解説いただいた。また、治療薬から関連する研究の用語を容易に参照できるように検索性を高めるよう配慮した。本書がこれらの疾患の研究に携わる方々はもちろん、多忙な臨床現場の方々にとってもお役に立てれば幸甚である。

今日の糖尿病学の進歩を考えると、本書は今後の加筆修正が必須であり、最新の情報をお届けできるよう適宜行いたいと考えている。また、本書の読者がひとりでも糖尿病研究に興味をもち、参入いただけることを願って止まない。

今なお増加する糖尿病とその合併症への根本対策は、これらの発症の分子メカニズムの解明から生まれるからである。

最後に、貴重な時間を割いて執筆にあたられたすべての先生方、根気強く編集いただいた羊土社の蜂須賀修司さん、林 理香さんに心より感謝申し上げます。

2013年3月

監修者・編者を代表して

松本 道宏

綿田 裕孝